

1. 略歴

1983年3月	日本大学文理学部史学科卒業卒業
1984年3月	東京大学文学部教務補佐員
1984年9月	東京大学文学部文部技官
1990年7月	東京大学文学部 助手
2005年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 助教
2009年3月	博士（文学）：東京大学
2009年4月	東京大学キャンパス計画室 助教
2011年4月	東京大学キャンパス計画室 准教授（～2024年6月）
2024年7月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

(1) 学位論文

『近世陶磁器の消費に関する考古学的研究』、330頁、2009年3月

(2) 編著書

『弥生誌 — 向岡記碑をめぐる』東京大学総合研究博物館、109頁、2011年4月（分担執筆：「東京大学構内遺跡の発掘調査」95-103頁）

『近世都市江戸の貿易陶磁器調査研究報告書』近世貿易陶磁器調査研究グループ、369頁、2013年9月（分担執筆：「I. 調査・研究の目的と背景」4頁、「II. 調査・研究の概要」5-6頁、「基調報告『近世都市江戸の貿易陶磁器』7-23頁、「研究報告11 江戸遺跡出土の明末・清初の貿易陶磁器— 分類・年代的様相と揃一括資料の評価—」161-172頁、「研究報告15 『加賀藩前田家表御納戸御道具目録帳』に記された貿易陶磁器」215-224頁）

『赤門— 溶姫御殿から東京大学へ—』東京大学出版会、268頁、2017年3月（分担執筆：「本郷邸の中に見える前田と徳川」26-30頁、「溶姫御殿の発掘調査」(112-117、126-129頁)

『東京大学埋蔵文化財調査室調査研究プロジェクト6 18・19世紀の福建・広東諸窯の貿易陶磁器資料報告集』東京大学埋蔵文化財調査室、176頁、2021年3月（分担執筆：「18・19世紀の福建・広東諸窯の貿易陶磁器」のねらい」1-3頁、「研究報告1 江戸遺跡出土の福建・広東諸窯の貿易陶磁器」4-19頁）

『重返古笨港雲林北港出土文物臺灣與日本合作研究』雲林縣政府、遺物編487頁、研究編423頁、2023年3月（分担執筆：遺物編「肆、林永村先生寄贈文物之古笨港文物」86-123頁、180-221頁、研究編「17～19世紀東亞區域陶瓷的流通」166-223頁）

(3) 共著書

『江戸文化の考古学』吉川弘文館、315頁、2000年8月（分担執筆：「考古資料から見た江戸時代の料理と器具」86-98頁）

『加賀殿再訪』東京大学総合研究博物館、210頁、2000年5月（分担執筆：「史料から見た御成と池遺構出土資料」138-143頁）

『掘り出された都市日蘭出土資料の検討から』日外アソシエーツ、339頁、2002年9月（分担執筆：「十七から十九世紀の東洋陶磁とヨーロッパ市場の動向（一）— 沈船引き上げ資料の器種組成の検討から—」109-132頁）

『食べ物の考古学』学生社、217頁、（分担執筆：2007年10月「江戸大名のたべもの」187-217頁）

『中世はどう変わったか』高志書院、228頁、2010年7月（分担執筆：「都市江戸の成立と出土遺物の江戸の様相」73-100頁）

『南海を巡る考古学』同成社、285頁、2010年9月「近世の薬種需要と唐薬貿易—中国製唐薬瓶の分析から—」227-251頁

『海の道と考古学インドシナ半島から日本へ』高志書院、268頁、2010年11月（分担執筆：「近世都市江戸における貿易陶磁器の消費—需要とその背景—」248-265頁）

『江戸の大名屋敷』吉川弘文館、2011年2月（分担執筆：「大名屋敷で使用された陶磁器と御殿の生活」181-206頁）

『江戸時代の名産品と商標』吉川弘文館、2011年3月（分担執筆：「都市江戸における消費行為と情報—出土資料と対比して—」245-254頁）

『江戸の水道』同成社、2012年6月（分担執筆：「発掘された水利施設」189-229頁）

- 『アジアの考古学1 陶磁器流通の考古学日本出土の海外陶磁』高志書院、299頁、2013年11月（分担執筆（共著）：「日本出土の中国明清時代の陶磁器」155-179頁）
- 『中近世陶磁器の考古学第二巻』雄山閣、310頁、2016年3月（分担執筆：「江戸大名藩邸出土陶磁器の消費モデル—加賀藩本郷邸の出土資料の分析から—」119-137頁）
- 『近世城郭の考古学入門』高志書院、235頁、2017年3月（分担執筆：「近世城郭・城下町の陶磁器」164-185頁）
- 『理論考古学の実践』同成社、1,018頁、2017年6月（分担執筆：「近世出土陶磁器の解釈視点—製品階層と情報—」実践編461-481頁）
- 『東京大学本郷キャンパス140年の歴史をたどる』東京大学出版会、199頁、2018年6月（分担執筆：「第1章先史・江戸時代の本郷」2-3頁（追川吉生と分担）、「6将軍の御成と藩邸の大改編」14-15頁、「学内埋蔵文化財発掘調査の始まり」140-141頁（尾崎信と分担））
- 『戦国大名北条氏の歴史』吉川弘文館、226頁、2019年12月（分担執筆：「近世城下町遺跡江戸と小田原出土の陶磁器」181-198頁）
- 『近世国家境界域「四つの口」における物質流通の比較考古学的研究2016～2020年度科学研究費補助金（基盤研究（B））研究成果報告書』、166頁、2021年3月（分担執筆：「江戸時代の貿易陶磁器需要—江戸の状況を中心として—」74-86頁）
- 『考古学研究会70周年記念誌考古学の輪郭』考古学研究会、255頁、2024年4月（分担執筆：「テーマ32近世における考古学と文献史」144-145頁）

(4) 論文

- 「東京都江戸遺跡出土の明末清初の陶磁器—東京大学本郷構内の遺跡出土遺物を中心に—」『貿易陶磁研究』11号、日本貿易陶磁研究会、1991年9月、185-200頁
- 『備前系焼締め播鉢』の系譜—17世紀以降の備前播鉢および堺播鉢について—」『東京考古』10号、東京考古談話会、1992年5月、91-110頁
- 「東京大学医学部附属病院地点出土の江戸時代陶磁器片の材質および産地」『考古学雑誌』79巻4号、日本考古学会、1994年3月、87-127頁（山崎一雄・成瀬晃司・大橋康二・望月明彦・杉崎隆一・小山睦夫・高田實弥・藁村哲男・東村武信と共著：堀内執筆87-94頁）
- 「東大統一編年試案再考—IV期～V期の段階設定について—」『江戸在地系土器の研究II』江戸在地系土器研究会、1994年3月、33-36頁
- 「東京大学理学部附属植物園内の遺跡研究温室地点—SK27出土の一括資料—」『東京考古』12号、東京考古談話会、1994年4月、135-142頁（成瀬晃司・両角まりと共著：堀内執筆137-138頁、141頁）
- 「江戸出土の18・19世紀の輸入陶磁」『東京考古』14号、東京考古談話会、1996年4月、99-118頁（坂野貞子と共著：堀内執筆99-110頁、113-118頁）
- 「東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察」『東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要1』『東京大学構内遺跡調査研究年報1』1997年3月、279-305頁
- 「東京大学本郷構内の遺跡薬学部新館地点SE67出土遺物の年代的考察」『東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要1』『東京大学構内遺跡調査研究年報1』1997年3月、263-277頁（佐藤律子・遠藤香と共著：堀内執筆263頁275-277頁）
- 「江戸遺跡出土の金銀貨」『出土銭貨』10号、出土銭貨研究会、1998年9月、115-123頁
- 「江戸遺跡出土の清朝陶磁」『貿易陶磁研究』19号、日本貿易陶磁研究会、1999年9月、1-22頁
- 「出土播鉢からみた様相差」『関西近世考古学研究』VII号、関西近世考古学研究会、1999年12月、91-100頁
- 「本郷キャンパスにおける発掘調査の成果—東大構内出土「古九谷」と生産地論争—」『加賀殿再訪』東京大学総合研究博物館、2000年5月、70-78頁（大成可乃と共著：堀内執筆70頁、73-76頁）
- 「江戸遺跡出土陶磁器の段階設定とその年代について」『竹石健二先生・沢田大多郎先生還暦記念論文集』2000年11月、213-231頁
- 『沼津市歴史資料館資料集—考古資料（3）大正2年の火災で焼失したセトモノ屋—』17号、沼津市歴史資料館、2000年3月、1-41頁（瀬川裕一郎・成瀬晃司・辻真人と共著：堀内執筆8-15頁）
- 「江戸遺跡出土の産地不明の貿易陶磁」『貿易陶磁研究』23号、日本貿易陶磁研究会、2003年9月、15-22頁
- 「江戸遺跡出土の清朝銭」『出土銭貨』18号、出土銭貨研究会、2003年2月、47-55頁
- 「オランダ消費遺跡出土の東洋陶磁器十七から十九世紀における東洋陶磁器貿易と国内市場」『東洋陶磁』36号、東洋陶磁学会、2007年3月、39-59頁
- 「沈船積載資料とオランダ消費遺跡出土の東洋陶磁器」『貿易陶磁研究』27号、日本貿易陶磁研究会、2007年9月、53-66頁

- 「江戸の陶磁器消費と柿右衛門」『柿右衛門様式研究—肥前磁器売立目録と出土資料—』九州産業大学 21 世紀 COE プログラム柿右衛門様式研究センター、2008 年 3 月、475-605 頁（坂野貞子と共著：堀内執筆 475-605 頁）
- 「宴会道具としての貿易陶磁器の再評価」—大聖寺藩邸出土貿易陶磁器 L32-1—『竹石健二先生・澤田大多郎先生古希記念論文集』2009 年 7 月、185-206 頁
- 「購入・廃棄の判断、行為と情報」『季刊東北学』22 号、柏書房、251 頁、2010 年 1 月、132-145 頁
- 「地方窯と消費遺跡」『東洋陶磁』39 号、東洋陶磁学会、2010 年 3 月、21-32 頁
- 「考古学からみた物質文化交流と江戸遺跡出土遺物—出土貿易陶磁器を中心に—」『田野考古学』第 13 巻第 1、2 期合刊、田野考古学編輯委員会、2010 年 12 月、71-120 頁
- 「都市江戸における貿易陶磁器消費の一例—江戸幕末の植木屋出土の貿易陶磁器—」『貿易陶磁研究』第 31 号、日本貿易陶磁研究会、2011 年 9 月、131-142 頁
- 「加賀藩邸の貿易陶磁器出土様相と「蔵帳」に記された陶磁器—『加賀前田家表御納戸御道具目録帳』を中心として—」『貿易陶磁研究』第 33 号、日本貿易陶磁研究会、2013 年 9 月、131-142 頁
- 「『陶磁の道』以降のアジア—ヨーロッパ間の陶磁器研究と流通研究への視点」『東洋陶磁』VOL.45、東洋陶磁学会、2016 年 3 月、41-57 頁（金田明美と共著：堀内執筆 41-42、44-57 頁）
- 「十七世紀から十九世紀の日本出土の貿易陶磁器」『南藝學報』第 12 期、國立臺南藝術大学出版、2016 年 6 月、113-160 頁
- 「藩邸における武家儀礼の陶磁器利用からみた九谷古窯製品」『石川賢九谷焼美術館紀要九谷を拓く』第 3 号、石川県九谷焼美術館、2020 年 3 月、14-20 頁
- 「江戸遺跡出土貿易陶磁器の年代的考察」『大橋康二先生喜寿記念論文集』雄山閣、2023 年 5 月、271-280 頁
- 「近世都市江戸出土の貿易陶磁器研究」『貿易陶磁研究』第 43 号、日本貿易陶磁研究会、2023 年 9 月、175-185 頁
- (5) **学会・シンポジウム発表予稿・要旨**
- 「江戸における遺跡検出の井戸理解のために—考察— 法学部四号館、文学部三号館建設地遺跡検出の井戸を中心に—」『第 2 回江戸遺跡研究会大会江戸の住空間とその周辺』江戸遺跡研究会、1989 年 3 月、8-16 頁
- 「東京大学構内遺跡病院地点出土の陶磁器—その変遷と組成—」『第 3 回江戸遺跡研究会大会江戸の陶磁器』江戸遺跡研究会、1990 年 3 月、発表要旨 23-27 頁、資料編 67-85 頁（成瀬晃司と共著：堀内執筆 25-27 頁、67-78 頁）
- 「東京大学本郷構内の遺跡統一編年試案」『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題 I』江戸陶磁土器研究グループ、1992 年 12 月、39-57 頁
- 「江戸遺跡の調査から」『シンポジウム信楽焼と京焼』信楽町教育委員会、1992 年 3 月、発表要旨 9-14 頁、講演報告 33-37 頁
- 「東京都内の遺跡出土の江戸時代末から明治時代初期の遺物群」『第 6 回江戸遺跡研究会大会遺跡にみる幕末から明治』江戸遺跡研究会、1993 年 1 月、142-180 頁
- 「東京大学本郷構内の遺跡出土陶磁器の編年的考察」『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題 II』江戸陶磁土器研究グループ、1996 年 12 月、5-46 頁
- 「記念講演消費遺跡出土陶磁器類の編年について—江戸遺跡を中心に—」『東北中世考古学会第 4 回大会東北地方の在り土器・陶磁器 II』東北中世考古学会、1998 年 7 月、3-13 頁
- 「江戸遺跡出土の清朝陶磁」『第 19 回貿易陶磁研究集会清朝陶磁をめぐる諸問題』日本貿易陶磁研究会、1998 年 9 月、1-10 頁
- 「播鉢から見た江戸と周辺地域」『江戸遺跡研究会第 11 回大会江戸と周辺地域』江戸遺跡研究会、1998 年 1 月、129-140 頁
- 「江戸遺跡出土の調理具・貯蔵具」『第 10 回関西近世考古学研究会大会上方と江戸』関西近世考古学研究会、1998 年 12 月、73-88 頁（長佐古真也と共著：堀内執筆 73-82 頁）
- 「東京大学本郷構内の遺跡出土磁器編年」『第 1 回考古科学シンポジウム』1999 年 12 月、89-100 頁
- 「江戸の四国産陶磁器出土の様相」『第 2 回徳島城下町研究会四国・淡路の陶磁器—生産と流通 I—』2000 年 7 月、153-178 頁
- 「基調報告食器にみる食生活」『第 14 回江戸遺跡研究会大会食器にみる江戸の食生活』江戸遺跡研究会、2001 年 1 月、1-5 頁
- 「関東地方（1）—江戸遺跡出土の肥前陶磁—」『第 11 回九州近世陶磁学会国内出土の肥前陶磁—東日本の流通をさぐる—』2001 年 2 月、157-185 頁
- 「江戸遺跡出土の丹波産播鉢」『第 1 回中近世丹波焼研究会関西近世考古学研究 IX』2001 年 12 月、137-171 頁

- 「東京大学医科学研究所（旧大村藩下屋敷）から出土した鉛塊について」『日本文化財科学会第18回大会』2001年6月、134-135頁（原祐一・大成可乃・寺島孝一・伊藤博之・小泉好延と共著：堀内執筆134頁）
- 「考古学と近代陶磁」『近代陶磁』3号、近代国際陶磁研究会、2002年5月、2-5頁
- 「江戸遺跡出土産地不明の貿易陶磁の問題」『第23回貿易陶磁研究集会産地不明の貿易陶磁器（12～16世紀）—消費地と生産地から—』日本貿易陶磁研究会、2002年9月、1-7頁
- 「近世陶磁器の流通と消費—四日市遺跡出土の陶磁器—」『資料集近世宿場町の景観と流通』東広島市教育委員会、2003年11月、71-79頁、「同」講演報告『近世宿場町の景観と流通』2005年3月、51-60頁
- 「オランダ国内諸都市出土の日本製品—特に肥前磁器を中心に—」『日本考古学協会第69回総会研究発表要旨』日本考古学協会、2003年5月、169-172頁（小林克と共著：堀内執筆169-172頁）
- 「特別講演都市江戸の発掘調査」『考古から近世・近代へのアプローチ』神奈川県考古学会、2004年3月、3-12頁
- 「廃棄する意識」『第17回江戸遺跡研究会大会続遺跡からみた江戸のゴミ』江戸遺跡研究会、2004年1月、103-111頁
- 「江戸・東京出土の珉平焼」『四国・淡路の陶磁器Ⅲ—珉平焼の生産と流通—』四国城下町研究会、2004年9月、59-66頁
- 「東日本における軟質施釉陶器の生産と流通—江戸遺跡出土資料を中心に—」『第3回研究集会軟質施釉陶器の成立と展開』関西陶磁史研究会、2004年1月、75-87頁
- 「江戸における情報と考古資料」『第18回江戸遺跡研究会大会江戸時代の名産品と商標』江戸遺跡研究会、2005年1月、279-292頁
- 「江戸大名藩邸における京焼の消費」『第5回研究集会京焼の成立と展開—押小路、栗田口、御室—』関西陶磁史研究会、2006年1月、85-115頁
- 「沈船積載資料とオランダ消費遺跡出土の東洋陶磁」『第27回研究集会資料集中世末～近世の貿易陶磁流通の諸問題』日本貿易陶磁研究会、2006年9月、37-41頁
- 「大名藩邸で使用された陶磁器と御殿内の生活」『第20回江戸遺跡研究会大会江戸の大名屋敷』江戸遺跡研究会、2006年11月、129-147頁
- 「考古学からみた物質文化交流と江戸遺跡出土遺物—出土貿易陶磁器を中心に—」『十六至十八世紀欧州と東亜、東南亜的文化互動国際学術研討会』台湾中央研究院歴史語言研究所、2007年10月、7-1-7-42頁
- 「17世紀の陶磁器からみた江戸社会」『関西近世考古学研究15』関西近世考古学研究会、2007年12月、84-110頁
- 「都市江戸とやきものの消費」『備前市歴史民俗資料館紀要—江戸時代の暮らしと備前焼—』10号、備前市教育委員会、備前市歴史民俗資料館、2008年9月、3-11頁
- 「地方窯と消費地遺跡」『第9回四国城下町研究会四国・淡路の陶磁器—砥部焼・屋島焼の生産と流通—』東洋陶磁学会・四国城下町研究会、2008年11月、129-141頁
- 「17～19世紀の陶磁器貿易を検証するの主旨」『17～19世紀の陶磁器貿易を検証する』2008年10月、1-6頁
- 「文化的行為と道具の使用に関する考古学的研究—遺跡出土の喫茶・喫煙具と江戸時代初期の嗜好品文化の展開の中で—」『平成19年度財団法人たばこ総合研究センター助成研究報告』2008年11月、69-89頁、（小林克と共著：堀内執筆69-81頁）
- 「都市江戸の成立と出土遺物の江戸の様相」『中世はどう変わったか』第7回考古学と中世シンポジウム、2009年7月、25-41頁
- 「都市江戸と貿易陶磁」『ベトナム・ホイアンとアジア海域交流』ユネスコ世界遺産登録10周年記念ホイアンシンポジウム、2009年8月、73-86頁
- 「都市江戸における貿易陶磁器の消費—江戸の需要とその背景—」『第23回江戸遺跡研究会大会都市江戸のやきもの』江戸遺跡研究会、2010年1月、7-41頁
- 「江戸幕末の植木屋出土の貿易陶磁器」『第31回日本貿易陶磁研究会研究集会』、2010年9月、1-16頁
- 「江戸における鍋島の出土様相とその背景」『第1回近世陶磁研究会幕藩体制下で例年献上された陶磁器』近世陶磁研究会、2011年2月、70-115頁
- 「蔵帳に書かれるもの、書かれないもの」『第33回日本貿易陶磁研究会研究集会『記録された貿易陶磁』、2012年9月、59-71頁
- 「都市江戸における肥前磁器の消費—初期色絵・鍋島・柿右衛門—」『第3回近世陶磁研究会江戸の武家地出土の肥前磁器—罹災資料と初期色絵・鍋島・柿右衛門—』近世陶磁研究会、2013年2月、2-11頁
- 「江戸の漳州窯系陶磁器需要とその背景—出土事例の分析から—」『漳州窯SWATOW—IV—』中国漳州窯研究会・中国古窯調査研究会、2013年11月、16-33頁

- 「(5) 近世考古学の「研究」を巡る諸問題— 調査・研究・周知化の流れのなかで—」『一般社団法人日本考古学協会第 80 回総会研究発表要旨』日本考古学協会、2014 年 5 月、98-99 頁
- 「陶磁器からみる近世甲斐国の様相について」『甲斐の城下町を探る—谷村城、甲府城下町遺跡発掘調査を中心として—』山梨県埋蔵文化財センター、2016 年 10 月、1-2 頁
- 「柿右衛門様式色絵の消費地での出土状況」『東洋陶磁学会第 44 回大会日本の磁器創始と発展—江戸前期を中心に—』東洋陶磁学会、2016 年 10 月
- 「近世期の貿易陶磁器需要とその背景」『関西近世考古学研究会第 28 回大会歴史資料としての近世貿易陶磁』関西近世考古学研究会、2016 年 12 月、1-15 頁
- 「江戸出土の明・清代の中国磁器」『第 7 回近世陶磁研究会日本における明清の中国磁器』近世陶磁研究会、2017 年 1 月、142-169 頁
- 「趣旨説明「貿易陶磁器の格差を考える— 差異を解釈する一視点—」」『第 38 回貿易陶磁研究会研究集会『貿易陶磁器の格差を考える』発表要旨』日本貿易陶磁研究会、2017 年 9 月、1-4 頁
- 「近世城下町出土の陶磁器— 江戸と小田原—」『小田原天守閣特別講演会小田原開府五百年のあゆみ』、小田原城天守閣、2018 年 12 月、35-47 頁
- 「趣旨説明「近世の酒と宴」」『近世考古学の提唱』50 周年記念近世の酒と宴』、近世考古学の提唱』50 周年記念研究大会実行委員会、2019 年 2 月、1-4 頁
- 「加賀藩本郷邸と前田家」『小田原三の丸ホール開館記念遺跡講演会資料集ホール下の広がる小田原藩重臣の武家屋敷』小田原市教育委員会、2021 年 9 月、24-32 頁
- 「江戸遺跡出土貿易陶磁器の数量的分析— 需要の検証—」『第 41 回日本貿易陶磁研究会研究集会最近話題の遺跡・注目される研究から』日本貿易陶磁研究会、2021 年 9 月、78-90 頁
- 「近世都市江戸出土の貿易陶磁器」『第 42 回日本貿易陶磁研究会研究集会あの遺跡、再びの共有』日本貿易陶磁研究会、2022 年 9 月、96-105 頁
- 「研究報告 1 (1)「消費遺跡における近世陶磁器研究の可能性」の背景と論点」『考古学研究会第 58 回東京例会消費遺跡における近世陶磁器研究の可能性』考古学研究会、2022 年 11 月、1-7 頁
- 「大村藩下屋敷出土の植木鉢」『第 35 回江戸遺跡研究会大会江戸の園芸』江戸遺跡研究会、2023 年 1 月、85-93 頁
- 「江戸遺跡出土の柿右衛門様式と金欄手様式」『第 11 回近世陶磁研究会柿右衛門様式から金欄手様式—高級磁器の生産と流通—』近世陶磁器研究、2023 年 2 月、111-276 頁 (藤掛泰尚と共著：堀内執筆 111-228 頁)
- 「日本社会的変革と陶器：從近世至近代」『臺灣出土の日本製近現代陶磁器與巫州近現代史國際學術研討會』2023 年 10 月、12-1-12-11 頁
- 「東京帝国大学旧図書館の基礎遺構」『江戸遺跡研究』第 11 号、江戸遺跡研究会、2024 年 3 月、113-120 頁
- (6) **事典項目**
- 『図説江戸考古学研究事典』柏書房、579 頁、2001 年 4 月、「井戸」105-108 頁、「江戸と海外交流」261-267 頁、「陶磁器」283-286・298-303・305-307・318-324 頁
- 『現代考古学事典』同成社、452 頁、2004 年 5 月、「江戸考古学」36-41 頁、「産業考古学」180-185 頁、「歴史考古学」444-448 頁
- 『しらべる江戸時代』柏書房、2001 年 10 月、「調理具」104 頁、「食器」105 頁
- 『日本都市史・建築史事典』丸善出版、670 頁、2019 年 11 月 (分担執筆：「近世都市の流通と消費」590-591 頁)
- (7) **発掘調査報告書 (編著書)**
- 『東京大学駒場構内遺跡大学院数理学研究科 II 期棟地点』(『東京大学構内遺跡調査研究年報』2 所収)、307 頁、1999 年 3 月 (執筆分担：「調査の概要」145-146 頁、「遺跡の位置と環境」147-151 頁、「基本層序」152 頁、「歴史時代」187-196 頁、「統制番号」のついた陶磁器について」211-216 頁)
- 『東京大学本郷構内の遺跡工学部 1 号館地点』東京大学埋蔵文化財調査室、191 頁、2005 年 3 月 (執筆分担：「調査の経過と概要」1-2 頁、「出土陶磁器・土器類の数量分析」137-139 頁、「加賀藩本郷邸における廃棄物処理に関する考察」141-161 頁)
- 『東京大学本郷構内の遺跡理学部 1 号館前地点』(『東京大学構内遺跡調査研究年報』5 所収) 314 頁、2006 年 3 月 (執筆分担：「調査の経過と概要」219-223 頁、「縄文時代の遺構・遺物」224-225 頁、「遺構」226-228 頁、「まとめ」230 頁)
- 『東京大学三鷹構内の遺跡長嶋遺跡』東京大学埋蔵文化財調査室、209 頁、2008 年 11 月 (執筆分担：「調査の経過と概要」1-3 頁)

- 『東京大学本郷構内の遺跡教育学部総合研究棟地点インテリジェント・モデリング・ラボラトリー地点』東京大学埋蔵文化財調査室、157頁、2011年3月（執筆分担：「遺跡の位置と環境」1-4頁、「教育学部総合研究棟地点」5-93頁、「インテリジェント・モデリング・ラボラトリー地点」99-135頁、「教育学部総合研究棟地点・インテリジェント・モデリング・ラボラトリー地点の土地利用の変遷」145-153頁）
- 『東京大学本郷構内の遺跡総合研究博物館新館地点』東京大学埋蔵文化財調査室、85頁、2012年5月（執筆分担：「遺跡の位置と環境」1-5頁、「調査の経緯と概要」6-12頁、「遺構」13-50頁、「考察」72-84頁）
- 『東京大学本郷構内の遺跡医学部教育研究棟地点報告編』東京大学埋蔵文化財調査室、416頁、2019年3月（執筆分担：「遺跡の位置と環境」1-4頁、「調査の経緯と概要」5-56頁、「遺構」57-317頁（大成可乃、小林照子と分担）、「遺物」319-414頁（大成可乃、大貫浩子、小林照子と分担）、「おわりに」415-416頁）
- 『東京大学本郷構内の遺跡懐徳門地点』（『東京大学構内遺跡調査研究年報』11所収）255頁、2019年3月（執筆分担：「遺跡の位置と環境」121-125頁、「調査の経過と概要」126-128頁、「遺構」129-145頁、「考察」171-180頁）
- 『東京大学本郷構内の遺跡医学部教育研究棟地点研究編』東京大学埋蔵文化財調査室、272頁、2020年3月（執筆分担：「研究1：医学部教育研究棟地点の発掘調査成果と土地利用1—天和2（1682）年まで—」1-21頁、「研究3：加賀藩本郷邸南域の地業について—医学部教育研究棟地点および周辺の調査から—」41-55頁、「研究5：火災処理と武家儀礼道具コレクション形成にみる本藩と支藩の関係について—天和2（1682）年の火災を例に—」69-80頁）
- 『東京大学本郷構内の遺跡薬学部南館地点・薬学部資料館地点』東京大学埋蔵文化財調査室、113頁、2021年3月（執筆分担：「遺跡の位置と環境」1-10頁、「薬学部南館地点」13-61頁、「薬学部資料館地点」57-93頁（阿部常樹、大貫浩子、香取祐一、小池聡と分担）、「薬学部南館地点・薬学部資料館地点の成果と藩邸初期の景観」97-107頁）
- 『東京大学白金構内の遺跡医科学研究所附属病院A棟地点研究編』東京大学埋蔵文化財調査室、155頁、2022年12月、（執筆分担：「研究2 医科学研究所附属病院A棟地点出土一括資料の数量的分析」15-41頁、「研究9 出土したレンガ基礎遺構」149-155頁）
- 『東京大学本郷構内の遺跡経済学研究科棟地点』東京大学埋蔵文化財調査室、283頁、2023年3月（執筆分担：「遺跡の位置と環境」1-8頁、「調査の経緯と概要」9-23頁、「遺構」24-107頁（迫川吉生と分担）、「研究2 溶砦御殿期以降の状況と建物基礎遺構」190-208頁）
- 『東京大学本郷構内の遺跡医学部附属病院看護職員等宿舍5号棟地点・看護職員等宿舍3号棟地点（2）』東京大学埋蔵文化財調査室、262頁、2024年3月（執筆分担：「遺跡の位置と環境」3-8頁、「看護職員等宿舍5号棟地点」11-191頁（内田仁、香取祐一、山下優介、湯沢丈と分担）、「研究2 医学部附属病院看護職員等宿舍5号棟地点の中世～近代の土地利用」223-234頁）
- (8) 発掘調査報告書（共著書）
- 『東京大学本郷構内の遺跡医学部附属病院地点』東京大学遺跡調査室、950頁、1990年3月（執筆分担：「古墳時代の遺構と遺物」25-36頁、「平安時代の遺構と遺物」36-39頁、「江戸時代の遺構」41-389頁、「江戸時代の遺物」391-743頁、「消費遺跡における陶磁器の基礎的操作と分析—東京大学構内遺跡病院地点出土資料を例に—」821-850頁（成瀬晃司と共著））
- 『東京大学本郷構内の遺跡法学部4号館・文学部3号館建設地遺跡』東京大学遺跡調査室、972頁、1990年3月（執筆分担：「江戸時代の調査」69-208頁（植田真、大塚達朗、佐々木彰、菅谷通保、高野光行、成瀬晃司と共著）、「江戸における井戸の有する二側面」832-843頁）
- 『山中城三ノ丸第一地点』三島市教育委員会、402頁、1995年3月、（執筆分担：「山中宿の出土陶磁器について」311-313頁）
- 『東京大学駒場構内遺跡農学部家畜病院地点』（『東京大学構内遺跡調査研究年報1』所収）、331頁、1997年3月（執筆分担：「江戸時代の遺物」115-126頁、「発掘調査の成果」145-154頁）
- 『本郷元町IV 分析各論編』都立学校遺跡調査会、200頁、2000年3月（執筆分担：「出土陶磁器の様相—33号遺構、68号遺構出土陶磁器類を中心に—」35-45頁）
- 『中吉原宿遺跡』富士市教育委員会、42頁、2002年3月（分担執筆：「特論陶磁器から見た中吉原宿」19-25頁）
- 『武蔵国府関連遺跡ヒルズ府中白糸台ノアージュ建設に伴う事前調査報告書』株式会社盤古堂、98頁、2002年10月（執筆分担：「府中宿および近隣遺跡出土陶磁器・土器の様相」47-55頁）
- 『大和市文化財調査報告書第84集下鶴間の小倉家資料調査報告書3 = 埋蔵資料=』大和市教育委員会、87頁、2003年1月、（執筆分担：「旧小倉家出土陶磁器の年代と特色」9-11頁）

- 『東京大学本郷構内の遺跡山上会館龍岡門別館地点』(『東京大学構内遺跡調査研究年報4』所収) 292頁、2004年3月(執筆分担:「出土遺物」166-171頁)
- 『四日市遺跡発掘調査報告書Ⅰ』東広島市教育文化振興財団、276頁、2004年3月(執筆分担:「(3)まとめ①5区出土の陶磁器・土器について」171-178頁)
- 『四日市遺跡発掘調査報告書Ⅱ』東広島市教育文化振興財団、249頁、2005年3月(執筆分担:「(3)まとめ①9区出土の陶磁器・土器について」144-152頁)
- 『東京大学本郷構内の遺跡医学部附属病院外来診療棟地点』東京大学埋蔵文化財調査室、644頁、2005年3月(分担執筆:「江戸時代の遺構」13-245頁(成瀬晃司と共著)、「出土した遺物」247-409頁(安芸菟子、大成可乃、大貫浩子、北野信彦、寺島孝一、原祐一と共著)、「外来診療棟地点出土陶磁器・土器類について」521-535頁、「外来診療棟地点SK171出土陶磁器の自然科学的調査」537-541頁(降幡順子、村上隆と共著)、「加賀藩・大聖寺藩江戸屋敷で使用された肥前磁器と「古九谷」」543-559頁)
- 『東京大学本郷構内の遺跡工学部14号館地点』東京大学埋蔵文化財調査室、542頁、2006年3月(執筆分担:「遺構」23-132頁(成瀬晃司と共著)、「磁器・陶器・土器」133-347頁(安芸菟子、大成可乃、大貫浩子、寺島孝一、成瀬晃司、原祐一と共著))
- 『千葉県勝浦市興津海浜遺跡調査報告書』興津海浜遺跡調査会、53頁、2010年10月(執筆分担:「第6章第2節磁器」23-35頁、「第6章第3節貿易陶磁器」35頁)
- 『六所家総合調査報告書埋蔵文化財』富士市教育委員会、76頁、2014年3月(執筆分担:「第4章第1節六所家敷地内SE2出土陶磁器の様相」61-66頁)
- 『武蔵国府関連遺跡発掘調査報告府中駅南口第一地区第一種市街地再開発事業に伴う事前調査』<第1分冊>株式会社盤古堂、387頁、2015年11月(執筆分担:「府中宿遺跡府中駅南口再開発第一地区M59-SX279出土陶磁器類について」111-116頁)
- 『東京大学白金構内の遺跡医学部附属病院A棟地点報告編』東京大学埋蔵文化財調査室、237頁、2022年3月、(執筆分担:「遺跡の位置と環境」1-6頁、「調査の経緯と概要」7-21頁、「遺構」22-67頁(大成可乃、小林照子と分担)、「遺物」68-235頁(大成可乃、小林照子と分担)、「小結」236頁)
- 『山畑遺跡(走湯権現関連遺跡群)調査報告書』山畑遺跡調査・研究グループ、169頁、2023年8月(分担執筆:「江戸時代の陶磁器の出土様相」本部23-25頁)
- 『松前町福山城下町遺跡(2)一松前港線改良工事埋蔵文化財発掘調査報告書一』北海道埋蔵文化財センター、252頁+附編(附属DVD)、2024年3月(分担執筆:「附編I-6福山城下町遺跡出土陶磁器の様相」1-6頁)
- (9) 図録・資料集(編著書)
- 『近世都市江戸の貿易陶磁器資料集(1)』近世貿易陶磁器調査・研究グループ、474頁、2013年9月(水本和美と編集分担)
- 『近世都市江戸の貿易陶磁器資料集(2)』近世貿易陶磁器調査・研究グループ、205頁、2021年9月(藤掛泰尚と編集分担)
- (10) 図録・資料集(共著書)
- 『大皿の時代展』出光美術館、153頁、1998年2月、(執筆分担:「江戸遺跡出土の大皿—加賀藩本郷邸出土品を中心として—」121-125頁)
- 『徳川御三家江戸屋敷発掘物語水戸黄門邸を掘る』文京ふるさと歴史館、96頁、2006年10月、(執筆分担:「水戸藩駒込邸の土地利用状況」34-35頁)
- 『特別展中山道板橋宿と加賀藩下屋敷』板橋区立郷土資料館、203頁、2010年2月、(執筆分担:「発掘された加賀藩上屋敷」163-167頁)
- 「江戸時代の貿易と薬瓶」『海と千代田の6000年』千代田区立四番町歴史民俗資料館、2009年10月、36-39頁
- 『特別展中山道板橋宿と加賀藩下屋敷』板橋区立郷土資料館、203頁、2010年2月、(執筆分担:「発掘された加賀藩上屋敷」163-167頁)
- 『徳川将軍家の器—江戸城跡の最新の発掘成果を美術品とともに—』千代田区立日比谷図書文化館、160頁、2013年1月(執筆分担、島崎とみ子と共著:「朝鮮通信使饗応と器」137-144頁)
- (11) 受賞
- 小山富士夫記念賞 褒賞、2022年10月、公益信託小山富士夫記念基金
- (12) その他
- 「東京大学医学部附属病院中央診療棟建設予定地出土の古九谷様式の色絵磁器について」『目の眼』133号、里文出版、1987年10月、56-64頁(成瀬晃司と共著:堀内執筆57-64頁)

- 「東京大学医学部附属病院新中央診療棟建設予定地点出土の「古九谷」『月刊考古学ジャーナル』297号、ニューサイエンス社、1988年10月、30-36頁（成瀬晃司と共著：堀内執筆30-32頁）
- 「東京大学本郷構内の遺跡工学部14号館地点出土の釣灯籠形土製品『東京考古』11号、東京考古談話会、1993年4月、218頁
- 「江戸大名屋敷の生活—加賀前田藩の発掘から—『あしあと』7号東大和歴史探訪の会記録・文集、1994年6月、5-52頁
- 「東大構内の遺跡から—地下室の釘書きの文字と能舞台—『季刊考古学』53号、雄山閣、1995年1月、78-81頁（成瀬晃司と共著：堀内執筆80-81頁）
- 「中国貿易陶磁器研究の到達点—明・清代—『季刊考古学』75号、雄山閣、2001年7月、18-19頁
- 「日本考古五歴史時代『史学雑誌2001年の歴史学界—回顧と展望—』第111編第5号、史学会、2002年5月、30-35頁
- 「加賀藩上屋敷の茶道具『淡交』723号、淡交社、2006年3月、83-87頁
- 「加賀藩江戸上屋敷における家臣の喫茶『淡交』724号、淡交社、2006年4月、87-91頁
- 「日本考古五歴史時代『史学雑誌2006年の歴史学界—回顧と展望—』第116編第5号、史学会、2007年5月、31-35頁
- 「江戸大名屋敷出土の陶磁器『季刊考古学』第110号、雄山閣、2010年2月、27-30頁
- 「加賀藩邸への御成と陶磁器『陶説』第715号、日本陶磁協会、2012年10月、31-34頁
- 「江戸城・大名藩邸出土の中国陶磁『出光美術館官報』第165号、2013年11月、16-49頁
- 「遺跡から出土する清朝陶磁器『陶説』第734号、日本陶磁協会、2014年5月、31-36頁
- 「新年総会記念講演出土陶磁器からみる近世甲府城下町の様相『甲斐』136号、山梨郷土研究会、2015年6月、1-10頁
- 「貿易陶磁器の格差を考える」の論点『貿易陶磁研究』NO.38、日本貿易陶磁研究会、2018年9月、1-4頁
- 『日本考古学・最前線』雄山閣、298頁、2018年11月（分担執筆：「中・近世」107-121頁）
- 「総論貿易陶磁研究の評価視点『月刊考古学ジャーナル』第722号、ニューサイエンス社、2019年2月、3-4頁
- 『企画研究「学術資産としての東京大学」講演録2 第4回「古くて新しい学術資産—東京大学の埋蔵文化財—』東京大学ヒューマニティーズセンター、2019年9月、1-51頁（鈴木淳、松田陽と共著）
- 「近世大名の儀礼行為」特別展『松江城大解剖—城郭そして城下町—』コラム（1）～（3）（第1回2020年7月1-2頁、第2回2020年7月1-2頁、第3回2020年7月1-2頁）、松江市立松江歴史館
- 「座談会考古企業を語る『月刊考古学ジャーナル10月臨時増刊号特集考古企業の現在』No.760、ニューサイエンス社、2021年10月、30-38頁
- 「江戸時代の酒器『季刊考古学飲食の風景と考古学』第159号、雄山閣、2022年5月、39-41頁
- 「総論近世の土木技術に関わる視点『月刊考古学ジャーナル9月臨時増刊号特集近世の土木考古学』No.772、ニューサイエンス社、2022年9月、3-4頁

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

日本大学 文理学部（2014～）

慶應義塾大学 文学部（2014～）

専修大学 文学部（2016）

(2) 学外組織委員など

文化資源学会 理事（2014～2020）

日本考古学協会 理事（2016～2020）

山梨県考古博物館 協議会委員（2016～2020）

東洋陶磁学会 常任委員（2017～）

函南町史跡箱根旧街道災害復旧整備委員会 委員（2021～）

伊豆の国市史跡等整備調査委員会 委員（2021～）